



## Startup Weekend Tokyo Tech Vol.2 開催報告

新緑が爽やかな 2015 年 4 月 24 日～26 日の 3 日間、東京工業大学を会場に Startup Weekend Tokyo Tech (SWTT) Vol.2 が開催されました。Startup Weekend (SW <http://startupweekend.org/>) とは、起業を本気で体験できるイベントです。週末の 54 時間でアイデアピッチ (1 分プレゼン)、チームビルディング、プロダクト開発、顧客開発、ビジネスプラン立案までをやりきって、最終日に業界を代表する審査員によってその優劣を競うイベントです。110 カ国を超える世界中で開催され、実際に多くの起業家がここから生まれています。日本でも 2012 年に第 1 回が開催され、今は全国各地で毎回 80 名近くを集める人気イベントです。

今回、東工大で開催されたのは、日本初の “Tech” に焦点をあてた SW で、去年 11 月の開催に続き 2 回目となります。科学技術に関連したビジネスを扱うということで、今回も東工大は、音圧分布測定器や酸素濃度で色が変わる素材、ERF マイクロアクチュエータなど様々な最新の科学技術を提供しました。また今回も CBEC は Venue Sponsor として協賛しています。

さて、初日、4 月 24 日の夕方、会場となった、蔵前会館にぞくぞくと参加者が集まり始めました。今回の参加者は会場都合で限定された 30 名。なんと SW 最年少になる 14 歳の中学生も参加しています。定刻の 18 時、本学副学長の丸山俊夫先生のご挨拶で SWTT Vol.2 が開幕しました。軽食とアルコールのパーティーで雰囲気がほぐれたら、ミニゲーム開始。ネタバレになるので詳しくは書けませんが、わずか 30 分ほどのゲームでも参加者の思考の癖や、個性が出て、非常に盛り上がりました。ウォーミングアップが終わったところで、1 分間のアイデアピッチです。約 20 人の参加者が事前に考えてきたビジネスアイデアをプレゼンします。プレゼン後はお互いに情報収集しながら「一緒にやってみよう！」と思うアイデアに投票をします。投票しながらチームメンバーを集め、最終的に 5 チームが結成されました。



2 日目、石川台地区に新しくオープンした「デザイン工房」に会場を移し、朝 9:00 からスタートです。デザイン工房には 6 台の 3D プリンターがずらりと並び、3D スキャナーや数々の文具・工具も用意されています。ここはスタンフォード大でインタラクティブ・ティーチングの経験を積んだ先生たちがデザインした工房で、チーム活動がしやすいテーブルと椅子が配置されています。今回も美味しい朝食をし

っかり摂ったところで、イベント・ファシリテーターDong Yol Lee氏によるプレゼンです。Lee氏の軽妙な進行で、SWが目指すもの、審査基準、MVPとは何かについて説明が行われたら、さっそく作業開始。それぞれのチームに分かれて、熱い議論が始まりました。午後からは、12名のビジネスコーチ・技術コーチが来られ、それぞれの専門的な観点からコーチングをしてくださいました。テックを謳っているだけあって、技術コーチがついているところがこのSWTTの特徴です。もちろんビジネスの面からも、強力かつシビアなフィードバックが飛び出していきます。

SWでは「試してみる」ことも重要視しています。今回は3Dプリンターが目の前にたくさん並んでいることから、「ちょっと作ってみたい」というニーズにもすぐに対応できます。工房の工作室では大きな発泡スチロールを切り出して試作品を作るチームや、アプリのモックを作ってユーザーヒアリングし、仮説を検証するチームもありました。中には自由が丘まで行ってインタビューしてきた強者チームもありました。この日は21時で終了でしたが、閉場ギリギリまで粘るチームや、場所を近くのお店に移して深夜まで議論したチームもあったようです。



そして3日目。朝食でしっかり目を覚まして顧客検証の続きを行います。最終プレゼンは17時から。各チームはビジネスモデルの検証に余念がありません。昨日実施したアンケートを元に試作品に修正を加えるチーム、再度、街に出て現物検証してくるチームなどさまざまな試行が行われていました。デザイン工房にはソファルームもあるので車座になってプレゼンを検証するチームも。

17時。ずらりと並んだ3人の審査員と、CBECの運営委員、その他大勢のゲストを前にプレゼン開始です。金曜にお台場でSLUSH ASIAを大成功させたAnttiも駆けつけてくれました。緊張した空気の中、各チーム、堂々と自分たちのアイデアをプレゼンしました。5つのチームのプレゼンが終わった後、今回は特別なプレゼンがありました。最年少で参加した14歳の少年。実は彼は人前に出るのがとても苦手だ

ったのです。それでも頭の中にはアイデアが渦巻いていた彼。その場の雰囲気につられたのか、なんと自分からアイデアピッチをしたいと言いつ出したのです。そして、見事に 2 分間、聴衆の前に立つことができました。自分のアイデアをテックのチカラを借りて形にしていく過程。その場での体験は少年のみならず、参加者全員の糧になったのではないのでしょうか。体験することで味わえる何か、それがこの日のデザイン工房には溢れていました。



さて、緊張のプレゼンが終われば優勝発表と打ち上げパーティーです。SWTT Vol.2 の優勝は、工作室で何回も試作品を作っていた入力デバイスのチームが受賞しました。打ち上げパーティーは、参加者とゲストやコーチが熱く語り合ったり、さっそく次に集まる相談をするチームがいたりして、今回の体験がとても有意義だったことが熱気と興奮となって伝わってきました。最後に、Lee 氏から SW はこれからも続く、ということ、この体験からの学びを次回に繋げて欲しいという話があり、みんなで記念写真を撮影して、熱い週末の 54 時間は幕を閉じたのでした。



次回の Startup Weekend Tokyo Tech は半年後の予定です。次回も楽しみにしてください。